

# 平成27年度 施策評価表

	課・グループ名	生涯学習課社会教育グループ
--	---------	---------------

作成年月日：平成28年9月2日

<b>施策名</b>	④社会教育の充実 3-3-④		
<b>1. 施策の現状分析及び展開方向</b>			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(3) 豊かな心を育てる社会教育の推進	④社会教育の充実
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>●町民の多様な学習ニーズを大切にし、地域の課題に取り組んでいくため、関係機関や団体との連携・協力を図り、学習情報の提供や学習機会の提供に努めます。</li> <li>●町民が、南幌を知り、地域のあり方を学習する主体的で継続的な生涯学習活動を推進するための組織や環境づくりに努めます。</li> <li>●高齢者への学習機会の提供やボランティア活動への取り組みを推進します。</li> <li>●社会教育活動を推進するため、農村環境改善センターの耐震等改修工事を行うなど、既施設の充実や有効活用を図ります。</li> </ul>		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●価値観の多様化や高齢社会の進行により、町民が生きがいを持って、明るく豊かな生活を送るため、自らを高めることや健康づくりに取り組むための学習の機会や情報の提供が求められています。</li> <li>●町民の学習意欲の高まりや学習要求に応え、あらゆる機会・場所において活動し、学ぶことができる環境づくりが求められています。</li> <li>●社会教育活動を推進する上で、農村環境改善センターの耐震化や施設の改修工事により、利用者の安全性の確保や利便性の向上を図ることが求められています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会の変化に伴う地域課題や生活課題を把握し、関係機関や団体と連携を図り、様々な学習ニーズに対応した学習機会を拡充することが必要です。</li> <li>●高齢者が生きがいをもって豊かな生活を営むことができるように学習機会の提供やボランティア活動への取り組みを推進することが必要です。</li> <li>●農村環境改善センターは、平成24年度の耐震診断により、天井部分の耐震改修工事が必要なほか、建設後30年が経過していることから、施設設備の老朽化等による改修工事が必要です。</li> </ul>	

<b>2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況</b>									
① 成果指標	設定の意図			まちづくりの成果指標名			数値化		
	高齢化が進む中、高齢者が生きがいや健康を学ぶ場や仲間づくりをするための場が必要であり、参加者数を増やしていくことが必要である。			成果指標 (総合計画・施策評価)			○	可能	
				さわやかカレッジ参加者数				不可能	
				代替指標 ※成果指標がない場合				未計測	
								指標の設定	
							可能		
							不可能		
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。									
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由		
		H24	H25	H26	H27	H28			
	目 標	人	793	793	806	832			858
	実 績	人	619	602	542	496			
達成率	%	78.1	75.9	67.2	59.6%		高齢化などによる、退学、休学者の増加により参加者数が減少した。		
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点			
③ 施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)				施策の達成度	登録している学生の高齢化が進む中、より多くの学生が参加できるプログラム内容の検討が必要である。		
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)							
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)				B			
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)							

### 3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

#### ①事務事業評価結果

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H27)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>	
					目標	実績					単位	H27実績		H28予算
					実績									
1	ふるさと南幌みらい塾推進事業	(1)	生涯学習課	参加者数	340		人	II	I	1	170	323	高い	
					210						現状のまま継続			
2	さわやかカレッジ運営事業	(1)	生涯学習課	参加者数	832		人	II	I	1	54	96	高い	
					496						現状のまま継続			
3														
4														

年度別施策全体の事業費合計(千円)	
H27事業費	224
H28予算	419

#### ②H28に実施した新規事務事業

	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H28予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	町民の多様な学習ニーズに対応した学習の機会を提供するため、事業構成は妥当である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	事業構成の妥当性  A	

#### 4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の方向性  優先度 A~D (ランク)	事業番号					平成29年度以降の予算の方向性
			A					
			B					
			C	1	2			
			D					
						○	拡大 維持 縮小	